

口語詩句総評 8月

新型コロナの夏と、終戦記念日についての投稿が多かったような気がする。35文字という制限を不自由と考えないで、少ない言葉で素敵な詩を編んでほしい。言葉が好きでたまらないという人の詩句は、ユーモアたっぷり、開かれている。

空の青さに飛び込んで  
溺れて消えてしまいたい

久しぶり  
と五歳児に言われて口籠る  
時間の感覚が一致してるか

九十歳のおじいさん  
「いやあ四十肩に  
なっちゃって」  
と半世紀さばよむ

虫 金魚 ハムスター  
墓は大概 アイスの棒

人間という  
いずれ死ぬ病

いいね、から  
進まぬ  
恋の物語

月間佳作数三位が  
嬉し過ぎて  
髪を切ることにした

とか、楽しい。言葉を軽く積むことができるのは才能なんかじゃなくて、時間をかけて何度も考える推敲だ。即興かなと感じるものほど、吟味されていることが多いものだ。

いっぽう、言葉の並べ方の才能なのだろうか、意味が完全には分からないけれど、不思議で捨てがたい作品もあった。

きょうという  
解かれていない  
問いのため  
壊れた帽子屋  
うごきはじめる

秋燕棺に煙草入れて去る

柔らかい時計  
追いかけない仲間  
踊らない椅子  
赤いクレヨン

焼きプリンの底に  
夏を追い払う  
月が潜む

人の優しさに  
触れたら死にたくなる  
雲とまじって  
消える飛行機

など。巧みなのだと思う。よく、抒情詩というと近代詩のように思われがちだけれど、新しい抒情を、若い詩人たちは創り出しているのだと確信する。

ほかにも紹介したい作品は多かった。

たくさんの人のたくさんの投稿を期待しています。とても楽しく読ませてもらっています。

秋亜綺羅

aa@akiakira.com